

鳥取短期大学司書課程修了生の意識調査

長岡 絵里佳¹・吉田 恵²・河崎 和穂³・
中島 久美子³・中谷 昇⁴

Erika NAGAOKA, Megumi YOSHIDA, Kazuho KAWASAKI, Kumiko NAKASHIMA, Noboru NAKATANI

A Survey on Tottori College Librarian Training Courses Graduates' Current Status and Their Opinions

鳥取短期大学司書課程修了生の就労状況や家庭環境など現在の状況、司書課程や司書資格についての意識を調査し、司書課程の学びや司書資格の意義について考察した。修了生の多くは鳥取県内の多様な分野で活躍し、司書資格や司書課程の学びは直接就職につながらなくても、取得者の支えになり、生活の多様な面で活かされていることがわかった。

キーワード：司書課程 修了生 卒業生 キャリア 図書館 授業改善

はじめに

鳥取短期大学の司書課程は1974(昭和49)年に開設して以来、全学科・専攻の学生だけでなく、鳥取大学の学生や社会人も対象にしている。鳥取短期大学の学生にとって司書科目の単位は卒業要件でなく、集中講義が多い日程で受講し続けるため負担が大きい。一方で、受講生の就職意識は必ずしも図書館司書へ向いてはならず¹⁾、課程を通じて得られる知識・技能等が、受講生のキャリア形成にどう影響しているか不明瞭である。

近年、正規職員として図書館に就職することは困難な状況²⁾であり、司書課程を学ぶ学生の進路はますます正規・非正規問わず司書に向かいにくくなっている。入学当初は意欲に燃えながらも、現実の状況を知るにつれて司書への就職意欲が低下し資格取得すらあきらめてしまう学生は多い。しかし一方で、卒業後も司書をめざしたり、学んだ知識を活用した

りする人もいるようだ。取得者にとって、司書課程の学びや司書資格はどのような意義があるのだろうか。資格取得者や修了生についての研究³⁾⁴⁾⁵⁾をみると、調査対象の年齢や人数に限られた調査が多い。

そこで、鳥取短期大学司書課程修了生全員を対象とし、就労状況や家庭環境などの現在の状況、司書課程や司書資格についての意識を調査し、司書課程の学びや司書資格の意義について考察する。そのことによって、今後の司書課程の改善やキャリア支援を図りたい。

本稿は、とっとりプラットフォーム5+a共同研究事業の一環として、鳥取県内の複数の機関の教職員で研究グループを結成し実施した研究活動の一部である。

1. 調査の概要

(1) 調査期間・方法

2020(令和2)年2月15日に調査協力依頼の文書と無記名の調査票を郵送し、2020(令和2)年2月28日を回答期限とした。回答は郵送とWebを併用し3月末まで受け付けた。WebアンケートはGoogleフォームを使って作成し、調査協力依頼の

1 鳥取短期大学国際文化交流学科

2 鳥取看護大学事務室教務係

3 鳥取看護大学・鳥取短期大学附属図書館

4 鳥取大学研究推進部研究推進課

文書に掲載されている URL または QR コードよりアンケートフォームへ入り回答してもらった。

(2) 調査対象

1974 (昭和 49) 年から 2018 (平成 30) 年に鳥取短期大学司書課程を履修し資格取得した 1775 名のうち、鳥取大学からの特別聴講生や社会人などの科目等履修生、住所不明な方、亡くなられた方を除くと、鳥取短期大学同窓会の同窓生を中心に 1267 名が対象となった。調査票を郵送した結果、67 通は不達となり、233 件 (郵送 199 通, web34 件) の回答があった。そのうち 2 件は無効回答のため、有効回答数は 231 件、有効回答率は 18.2% であった。

(3) 主な調査内容

基本属性については、性別、年齢、卒業した学科、配偶関係、子どもの有無、同居家族等、現在の就労状況については、職種、業種、年収、転職の有無等を求めた。司書資格については、取得理由、役立っている点、有利になった点、図書館での勤務経験等をたずねた。司書課程の授業への要望、キャリア支援についての要望、司書資格をとってよかったと思うことの 3 点については自由記述欄を設けた。さらに、図書館での勤務経験を有する人を対象として、勤務した図書館の館種と勤務年数、学んだ知識・技能のなかで最も役立ったもの、勤務前にもっと深く学んでおけばよかった知識・技能、司書資格以外で役立った資格について回答を求めた。

(4) 倫理的配慮

調査協力依頼の文書において、司書課程の改善や今後のキャリア支援に活かすための調査であること、回答は自由意志によること、匿名化して集計し個人が特定されるような表記や分析は行わないことなどを説明し、回答があったことをもって調査についての同意が得られたものとみなした。実施にあたっては、鳥取看護大学・鳥取短期大学研究倫理審査委員会の承認 (承認番号 2019-13) を受けた。

(5) 分析方法

基本属性、取得理由などの司書資格についての項目や図書館での勤務経験に関する項目については単純集計およびクロス集計で示した。自由記述に関しては、キーワードごとに分類し整理した。

2. 調査の結果

(1) 基本属性

回答者の性別、現在の居住地、年齢については表 1 のとおりである。

表 1 回答者の性別、居住地、年齢 (n=231)

性別	女性	94.8%
	男性	5.2%
現在の居住地	鳥取県	71.4%
	県外	28.2%
	未回答	0.4%
年齢	20 代	16.9%
	30 代	18.2%
	40 代	19.0%
	50 代	27.7%
	60 代	16.0%
	未回答	2.2%

回答者の多くは女性で特に 40 代以上はほぼ女性であった。回答者の年齢は、50 代が最も多かったものの、各年代から同程度の割合の回答が得られた。

現在の居住地は鳥取県が多い。鳥取県外に居住している人のうち 56.1% は鳥根県であり、次に鳥根県を除く中国地方 (12.1%)、近畿地方 (10.6%) が多かった。その他、関東地方、中部地方、四国地方、九州地方という回答がみられた。

年齢別に、性別、居住地、卒業した学科、結婚、子どもの数について整理したものが表 2 である。20 代は他の年代に比べ県内在住の割合が最も多かった。

卒業した学科については、学科名称の変遷に従って選択肢にしたものの、1992 (平成 4) 年に生活学科に改称した家政学科食物栄養専攻を 20 代が選択している (家政学科の卒業生は 40 代以上となる) ように誤答と思われるものが多かったが、そのまま

表2 年齢別の性別, 居住地, 卒業した学科, 結婚, 子どもの数

		全体 n=231	年齢					未回答 n=5
			20代 n=39	30代 n=42	40代 n=44	50代 n=64	60代 n=37	
性別	女性	94.8%	84.6%	88.1%	100.0%	98.4%	100.0%	100.0%
	男性	5.2%	15.4%	11.9%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%
居住地	鳥取県	71.4%	82.1%	73.8%	65.9%	71.9%	62.2%	80.0%
	県外	28.2%	17.9%	26.2%	34.1%	28.1%	35.1%	20.0%
	未回答	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	0.0%
卒業学科	英語学科	9.1%	0.0%	0.0%	6.8%	14.1%	24.3%	0.0%
	家政学科 家政専攻	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	16.2%	0.0%
	家政学科 食物栄養専攻	8.7%	5.1%	0.0%	6.8%	9.4%	21.6%	20.0%
	幼児教育学科	29.9%	2.6%	38.1%	29.5%	39.1%	32.4%	40.0%
	家政学科 生活科学専攻	6.1%	0.0%	0.0%	4.5%	18.8%	0.0%	0.0%
	英語英文学科	1.7%	0.0%	2.4%	6.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	生活学科 食物栄養専攻	7.8%	0.0%	4.8%	11.4%	7.8%	5.4%	20.0%
	生活学科 生活科学専攻	2.6%	7.7%	0.0%	9.1%	3.1%	0.0%	0.0%
	日本文化学科	3.0%	0.0%	0.0%	13.6%	0.0%	0.0%	20.0%
	生活学科 生活経済専攻	1.7%	0.0%	7.1%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%
	生活学科 住居・デザイン専攻	1.7%	2.6%	2.4%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	国際文化交流学科	11.3%	48.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	生活学科 情報・経営専攻	5.2%	15.4%	7.1%	4.5%	1.6%	0.0%	0.0%
	幼児教育保育学科	6.5%	15.4%	19.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	1.3%	2.6%	2.4%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%
未回答	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	
結婚	既婚 (事実婚含む)	65.4%	7.7%	59.5%	65.9%	90.6%	83.8%	100.0%
	未婚	29.4%	92.3%	38.1%	27.3%	4.7%	2.7%	0.0%
	離別	4.8%	0.0%	2.4%	6.8%	4.7%	10.8%	0.0%
	未回答	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	0.0%
子どもの数	いない	34.2%	89.7%	42.9%	31.8%	14.1%	5.4%	20.0%
	1人	9.9%	5.1%	11.9%	9.1%	12.5%	8.1%	20.0%
	2人	35.1%	0.0%	23.8%	29.5%	56.3%	51.4%	60.0%
	3人	16.0%	0.0%	19.0%	18.2%	14.1%	32.4%	0.0%
	4人以上	3.5%	0.0%	2.4%	9.1%	3.1%	2.7%	0.0%
	未回答	1.3%	5.1%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%

集計した。同様に、2000（平成12）年に専攻分離した生活学科生活科学専攻を選択している20代、2006（平成18）年に幼児教育保育学科に改称した幼児教育学科を選択している20代は誤答と思われる。卒業した学科は、幼児教育学科と幼児教育保育学科あわせて36.4%と幼児教育系が最も多く、次いで食物栄養専攻が家政学科と生活学科あわせて16.5%、国際文化交流学科が11.3%だった。その他の回答は、専攻科に進学した人である。

既婚と離別あわせて約70%の人が結婚し、約65%の人が子育てを経験している。子どもの数は2人が最も多く、0歳から38歳以上の子どもがいる

ことがわかった。

同居している家族については表3である。未回答を含めた「一人暮らし・不明」が4.3%で、約95%の人は親族など誰かと同居している。その他の回答は、甥や姪、孫、曾祖母、友人などであった。

(2) 就労の状況

勤務形態、業種、職種については表4である。「派遣社員等」と「パート等」あわせて約37%で、「正社員」の割合が最も多いのは20代だった。60代は、「パート等」や「働いていない」人の割合が他の年代に比べて多く、「派遣社員等」の割合が最も多い

表3 年齢別の同居家族（複数回答）

	全体	年齢						
		20代	30代	40代	50代	60代	未回答	
	n=231	n=39	n=42	n=44	n=64	n=37	n=5	
同居家族 (複数回答)	配偶者	63.2%	7.7%	59.5%	63.6%	85.9%	81.1%	100.0%
	子ども	47.6%	2.6%	57.1%	63.6%	60.9%	45.9%	20.0%
	親	46.3%	82.1%	33.3%	45.5%	35.9%	35.1%	100.0%
	祖父母	11.7%	28.2%	14.3%	11.4%	3.1%	5.4%	20.0%
	姉妹兄弟	15.6%	46.2%	16.7%	15.9%	4.7%	2.7%	0.0%
	その他	4.3%	2.6%	2.4%	4.5%	4.7%	5.4%	0.0%
	一人暮らし・不明	4.3%	7.7%	14.3%	0.0%	0.0%	2.7%	0.0%

表4 年齢別の勤務形態、業種、職種

	全体	年齢						
		20代	30代	40代	50代	60代	未回答	
	n=231	n=39	n=42	n=44	n=64	n=37	n=5	
勤務形態	自営業主・家族従業員	4.8%	0.0%	2.4%	4.5%	7.8%	8.1%	0.0%
	経営者・役員	2.6%	0.0%	0.0%	2.3%	3.1%	8.1%	0.0%
	正社員・正職員	43.3%	61.5%	54.8%	50.0%	32.8%	16.2%	80.0%
	派遣社員・契約社員・嘱託	18.2%	23.1%	26.2%	20.5%	9.4%	18.9%	0.0%
	パート・アルバイト	19.0%	10.3%	9.5%	18.2%	26.6%	27.0%	20.0%
	働いていない(主婦・学生も含む)	10.8%	5.1%	7.1%	4.5%	14.1%	18.9%	0.0%
	未回答	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	2.7%	0.0%
業種	官公庁・公務員	15.6%	15.4%	21.4%	18.2%	14.1%	10.8%	0.0%
	農林水産業	2.6%	2.6%	0.0%	0.0%	4.7%	5.4%	0.0%
	鉱業、採石業、砂利採取業	0.4%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	建設業	2.6%	0.0%	0.0%	4.5%	6.3%	0.0%	0.0%
	製造業	3.9%	7.7%	2.4%	2.3%	4.7%	0.0%	20.0%
	電気・ガス熱供給・水道業	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	情報通信業	0.4%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	運輸業・郵便業	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小売業、卸売業	6.9%	7.7%	4.8%	6.8%	7.8%	8.1%	0.0%
	金融業、保険業	3.5%	5.1%	2.4%	0.0%	7.8%	0.0%	0.0%
	不動産業、物品賃貸業	0.9%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	2.7%	0.0%
	宿泊業、飲食サービス業	3.9%	7.7%	2.4%	2.3%	1.6%	8.1%	0.0%
	教育、学習支援業	11.7%	12.8%	23.8%	18.2%	3.1%	2.7%	20.0%
	医療、福祉	25.5%	20.5%	31.0%	34.1%	18.8%	21.6%	60.0%
	その他	8.2%	12.8%	0.0%	4.5%	10.9%	13.5%	0.0%
未回答	13.9%	5.1%	9.5%	6.8%	20.3%	27.0%	0.0%	
職種	事務	20.4%	12.8%	9.5%	29.5%	29.7%	10.8%	40.0%
	接客	6.5%	15.4%	2.4%	6.8%	6.3%	2.7%	0.0%
	販売	4.3%	5.1%	4.8%	2.3%	6.3%	2.7%	0.0%
	営業	1.7%	2.6%	0.0%	2.3%	1.6%	2.7%	0.0%
	製造	3.9%	5.1%	4.8%	2.3%	1.6%	5.4%	20.0%
	SE・情報処理	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	教員	0.4%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	栄養士	1.8%	5.1%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	20.0%
	保育士・幼稚園教諭	15.6%	12.8%	35.7%	9.1%	15.6%	2.7%	20.0%
	図書館司書	13.4%	25.6%	16.7%	18.2%	4.7%	8.1%	0.0%
	その他	18.6%	12.8%	16.7%	18.2%	15.6%	35.1%	0.0%
	未回答	13.4%	2.6%	9.5%	6.8%	18.8%	29.7%	0.0%

表5 年齢別の役職, 年収, 転職回数

	全体	年齢						
		20代	30代	40代	50代	60代	未回答	
	n=231	n=39	n=42	n=44	n=64	n=37	n=5	
役職	ついていない	65.8%	92.3%	78.6%	63.6%	56.3%	43.2%	60.0%
	現場のリーダー	5.6%	5.1%	4.8%	4.5%	6.3%	8.1%	0.0%
	主任・係長クラス	8.7%	0.0%	7.1%	18.2%	7.8%	8.1%	20.0%
	課長クラス	3.5%	0.0%	0.0%	6.8%	4.7%	2.7%	20.0%
	部長クラス以上	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%
	その他	3.0%	0.0%	2.4%	2.3%	3.1%	8.1%	0.0%
	未回答	12.6%	2.6%	7.1%	4.5%	18.8%	29.7%	0.0%
年収	収入なし	6.5%	2.6%	2.4%	4.5%	6.3%	18.9%	0.0%
	200万円未満	38.1%	41.0%	33.3%	40.9%	35.9%	43.2%	20.0%
	200万円台	20.8%	41.0%	23.8%	20.5%	10.9%	13.5%	20.0%
	300万円台	13.4%	7.7%	23.8%	11.4%	9.4%	10.8%	60.0%
	400万円台	5.6%	0.0%	4.8%	6.8%	7.8%	8.1%	0.0%
	500万円台	3.9%	0.0%	2.4%	9.1%	6.3%	0.0%	0.0%
	600万円台	2.6%	0.0%	2.4%	4.5%	4.7%	0.0%	0.0%
	700万円台	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	2.7%	0.0%
	800万円以上	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%
未回答	7.8%	7.7%	7.1%	2.3%	15.6%	2.7%	0.0%	
転職回数	なし	32.5%	74.4%	31.0%	27.3%	23.4%	16.2%	0.0%
	1回	16.0%	15.4%	35.7%	9.1%	10.9%	8.1%	40.0%
	2回	16.5%	2.6%	11.9%	27.3%	15.6%	24.3%	20.0%
	3回	12.1%	2.6%	11.9%	18.2%	14.1%	10.8%	20.0%
	4回	7.8%	2.6%	4.8%	2.3%	9.4%	18.9%	20.0%
	5回以上	15.2%	2.6%	4.8%	15.9%	26.6%	21.6%	0.0%

のは30代だった。

業種をみると、「医療、福祉」が最も多く、次いで「官公庁・公務員」「教育、学習支援業」だった。「教育、学習支援業」は50代と60代では少なく、「その他」や「未回答」の割合が多い。その他の回答には、財団法人や輸入業、寺院などがあつた。自由記述等から推測すると、未回答は、働いていない人や業種区分にあてはめにくい仕事の人、複数の業種を兼務している人が含まれるものと思われる。

職種をみると、「事務」が最も多く、次いで「保育士・幼稚園教諭」「図書館司書」だった。「図書館司書」は20代が最も多いが、60代も8.1%働いており、比較的息の長い職種の一つであることがわかる。その他の回答は、介護職が最も多く、調理師、ケアマネジャー、支援員などがあつた。未回答については業種と同様の要因が考えられる。

役職や年収、転職回数については表5である。役職に「ついていない」割合は、20代が最も多く年齢があがるにつれて減少している。卒業生の多くは役職についていないことがわかるが、一方で、その他の回答には代表や理事などがあり、その分野のリーダーとして活躍している卒業生もいる。

全体の年収をみると、「200万円未満」と「200万円台」あわせて58.9%と半数以上を占め、「200万円未満」はどの年代においても最も多かった。30代以降は300万円台の割合が多くなり、500万円台以上の人も出てくる。50代では年収の高い人もみられるが、未回答が多く、年収については答えにくいことが推測できる。世帯年収を回答したと思われる人もみられ、特に50代や60代では、個人か世帯かどの年収を回答していいか迷う人もいたようである。

契約社員、パート・アルバイト、派遣社員なども

表6 年齢別の転職理由（複数回答）

	全体	年齢					
		20代	30代	40代	50代	60代	未回答
	n=156	n=10	n=29	n=32	n=49	n=31	n=5
給与が低かった	10.3%	10.0%	20.7%	9.4%	8.2%	3.2%	20.0%
結婚	31.4%	0.0%	20.7%	25.0%	34.7%	54.8%	20.0%
出産・育児	33.3%	0.0%	20.7%	40.6%	40.8%	38.7%	20.0%
配偶者の転勤・転居	3.2%	0.0%	6.9%	3.1%	2.0%	3.2%	0.0%
他にやりたいことがあった	16.7%	10.0%	17.2%	9.4%	16.3%	22.6%	40.0%
職種の変更	25.6%	30.0%	20.7%	31.3%	20.4%	32.3%	20.0%
人間関係の不满	15.4%	50.0%	20.7%	9.4%	14.3%	9.7%	0.0%
健康問題	9.0%	10.0%	10.3%	3.1%	10.2%	12.9%	0.0%
労働条件の不满	16.0%	20.0%	24.1%	9.4%	18.4%	12.9%	0.0%
体力の限界	5.8%	10.0%	3.4%	6.3%	6.1%	3.2%	20.0%
雇用期間満了のため	26.9%	20.0%	27.6%	34.4%	26.5%	25.8%	0.0%
定年	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.6%	0.0%
雇用先の都合	16.0%	30.0%	6.9%	21.9%	14.3%	16.1%	20.0%
その他	14.7%	10.0%	10.3%	6.3%	26.5%	9.7%	20.0%

含め転職した回数を聞くと、全体の約68%の人が転職していた。しかも転職の回数は1回だけでなく、30代以降は2回以上が増え、50代や60代では5回以上転職した人が20%を超えていた。

転職した156人にその理由を聞いた結果が表6である。全体の割合をみると「出産・育児」が最も多く、「結婚」「雇用期間満了のため」「職種の変更」と続くが、20代では「人間関係の不满」が最も多かった。30代では「雇用期間満了のため」の次に「労働条件の不满」が高く、若い世代では人間関係や労働条件等が転職理由として多い。50代はその他を選んだ人が多く転職理由はさまざまであることがわかる。その他の回答は、家族の介護や病気、家庭の事情、倒産や閉鎖、通勤時間が長い、募集内容と違う仕事をさせられたため、キャリアアップや引き抜き、仕送りの必要がなくなったためなどがあった。

人数が少ないため具体的な数値は記載しないが、男女別に転職理由をみると、「出産・育児」「結婚」を選択した男性はいなかった。男性の転職理由は人間関係や労働条件などであった。また、男性は転職したことがない人の割合も半数を超え、女性よりも多かった。

(3) 資格取得の理由と資格の活用

司書資格を取ろうと考えた理由は表7である。全体をみると、「何でもいいから資格の一つくらいは取ろうと思ったから」が最も多く、「何か資格を持っていると就職に有利だと思ったから」が続く。しかし、20代では、「何でもいいから資格の一つくらいは取ろうと思ったから」は少なく、「親や高校時代の先生に勧められたから」が他の年代に比べ多かった。また、20代は図書館員が身近だったのか「図書館員の姿をみて憧れていたから」が多かった。

その他の回答は、「本が好きだから」が多く、「友達にすすめられて」「すべての資格を取得しようと思ったから」「図書館に限らず本に関わる仕事につきたかった」「興味があった」「特に理由はなく受講した」「就職の1つの選択肢にならと思った」「時間に余裕があったから」などがあった。

司書資格を取得する際に学んだ知識・技能はどのように役立っているかについては表8に示す。全体をみると、「知識を深めることに役立った」が最も高く、次いで「仕事をするうえで役立った」「役立ったことはない」であった。20代は、他の年代と比べ「人とのコミュニケーションに役立った」が多く、「役立ったことはない」は少なかった。その他の回

表7 司書資格を取ろうと考えた理由（複数回答）

	全体	年齢					
		20代	30代	40代	50代	60代	未回答
	n=231	n=39	n=42	n=44	n=64	n=37	n=5
親や高校時代の先生に勧められたから	6.5%	15.4%	2.4%	6.8%	3.1%	8.1%	0.0%
短大（大学）で勉強する以上、何でもいから資格の一つくらいは取ろうと思ったから	26.4%	10.3%	23.8%	29.5%	28.1%	32.4%	80.0%
図書館で働きたかったから	16.5%	12.8%	16.7%	22.7%	14.1%	16.2%	20.0%
働いている図書館員の姿をみて憧れていたから	2.2%	10.3%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%
司書資格を持っていると就職に有利だと思ったから	6.9%	5.1%	7.1%	2.3%	12.5%	5.4%	0.0%
司書資格に限らず、何か資格を持っていると就職に有利だと思ったから	25.5%	28.2%	21.4%	25.0%	32.8%	16.2%	20.0%
情報を扱うための技術が身につくと思ったから	3.0%	0.0%	0.0%	6.8%	4.7%	2.7%	0.0%
図書館が好きだから	17.7%	17.9%	31.0%	18.2%	6.3%	24.3%	0.0%
その他	7.4%	12.8%	19.0%	0.0%	1.6%	8.1%	0.0%
未回答	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	8.1%	0.0%

表8 司書資格を取得する際に学んだ知識・技能はどのように役立っているか（複数回答）

	全体	年齢					
		20代	30代	40代	50代	60代	未回答
	n=231	n=39	n=42	n=44	n=64	n=37	n=5
仕事をするうえで役立った	28.6%	28.2%	33.3%	40.9%	25.0%	18.9%	0.0%
物の見方や考え方に役立った	14.3%	17.9%	16.7%	13.6%	10.9%	10.8%	40.0%
知識を深めることに役立った	32.0%	28.2%	40.5%	36.4%	23.4%	37.8%	20.0%
人とのコミュニケーションに役立った	3.5%	10.3%	0.0%	2.3%	3.1%	2.7%	0.0%
人生や生活を考えるうえで役立った	4.8%	5.1%	4.8%	6.8%	4.7%	2.7%	0.0%
他の資格を取得するうえで役立った	0.4%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%
役立ったことはない	16.0%	7.7%	11.9%	11.4%	26.6%	13.5%	40.0%
その他	4.3%	2.6%	2.4%	0.0%	7.8%	8.1%	0.0%
未回答	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	8.1%	0.0%

答は、「図書館で本を探す際に役立った」「何かに役立っていると思う」「いざという時の強み」「読み聞かせなどに役立つ」などがあつた。

就職活動の際に司書資格を提示して有利になった点は表9である。全体をみると、「とくにない」が最も多く、次いで「自己PRにつながった」「希望した職業、職種につけた」だった。20代や40代は「応募条件をみやすことができた」が他の年代に比べ多い。その他の回答をみると、再任用に有利というもののや、司書資格に気づいた周囲の人が求人情報を教えてくれることにつながったという記述があつた。

（4）勤務経験と役立った知識・技能

図書館での勤務経験は表10に示す。ここで「図書館」とは、大学図書館、小中高の学校図書館、国立国会図書館、都道府県立あるいは市区町村立図書館だけでなく専門図書館や博物館等に付属する図書室も含むと定義し、資格取得後「図書館」に職員（パート・アルバイト・派遣職員などは含み、ボランティアは含まない）として勤務したことがあるか聞いた。全体をみると、約72%は勤務したことがなく、以前勤務していた人と現在勤務している人あわせて24.6%であつた。現在勤務している人は、20代が最

表9 就職活動の際に司書資格を提示したことで有利になった点（複数回答）

	全体	年齢					
		20代	30代	40代	50代	60代	未回答
	n=231	n=39	n=42	n=44	n=64	n=37	n=5
希望した職業、職種につけた	13.4%	15.4%	23.8%	15.9%	6.3%	10.8%	0.0%
応募条件をみやすことができた	5.6%	10.3%	4.8%	13.6%	1.6%	0.0%	0.0%
自己PRにつながった	21.6%	10.3%	28.6%	20.5%	26.6%	18.9%	20.0%
志望動機につながった	3.0%	2.6%	4.8%	4.5%	1.6%	0.0%	20.0%
とくにない	42.4%	43.6%	28.6%	38.6%	51.6%	45.9%	60.0%
わからない	11.3%	17.9%	14.3%	6.8%	7.8%	13.5%	0.0%
その他	1.7%	0.0%	0.0%	2.3%	1.6%	5.4%	0.0%
未回答	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	8.1%	0.0%

表10 図書館での勤務経験

	全体	年齢					
		20代	30代	40代	50代	60代	未回答
	n=231	n=39	n=42	n=44	n=64	n=37	n=5
これまで一度も勤務したことがない	71.9%	71.8%	64.3%	63.6%	79.7%	75.7%	80.0%
以前勤務したことがあるが、今は勤務していない	11.2%	0.0%	14.3%	18.2%	10.9%	10.8%	20.0%
現在勤務している	13.4%	25.6%	16.7%	18.2%	4.7%	5.4%	0.0%
未回答	3.5%	2.6%	4.8%	0.0%	4.7%	8.1%	0.0%

表11 勤務した図書館の館種（複数回答）

	全体	年齢					
		20代	30代	40代	50代	60代	未回答
	n=57	n=10	n=13	n=16	n=10	n=6	n=1
国立国会図書館	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
四年制大学の図書館	1.8%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
短大、高専の図書館	12.3%	10.0%	23.1%	12.5%	0.0%	16.7%	0.0%
高等学校の図書館	5.3%	10.0%	7.7%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%
中学校の図書館	19.3%	10.0%	23.1%	25.0%	20.0%	16.7%	0.0%
小学校の図書館	29.8%	30.0%	30.8%	31.3%	30.0%	33.3%	0.0%
都道府県立図書館	10.5%	10.0%	23.1%	0.0%	10.0%	16.7%	0.0%
市町村立図書館	61.4%	70.0%	46.2%	68.8%	60.0%	66.7%	100.0%
私立図書館	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	7.0%	0.0%	15.4%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%

も多く、50代と60代にもいることがわかった。

以前勤務したことがある人と現在勤務している人あわせて57人に、勤務した図書館の館種を聞いた結果が表11である。全体をみると、市町村立図書館が最も多く、次いで小学校の図書館、中学校の図書館だった。国立国会図書館や私立図書館以外は、

卒業生が勤務していることが分かった。その他の回答は、病院図書室や公文書館、大学の専門資料室や幼稚園の絵本のへやがあった。

勤務した期間について最も長い図書館とそこで勤務した期間については表12である。勤務した期間が最も長い図書館は市町村立図書館と回答した人が

表 12 勤務した期間が最も長い図書館

	割合 (n=57)	最長期間	最短期間
短大、高専の図書館	7.0%	14年	2年8か月
高等学校の図書館	3.5%	9年8か月	9か月
中学校の図書館	3.5%	4年	2年8か月
小学校の図書館	14.0%	17年	9か月
都道府県立図書館	10.5%	13年	11か月
市町村立図書館	40.4%	31年	1年
その他	8.8%	9年	2年3か月
未回答	12.3%		

表 13 図書館で勤務する際に司書課程で学んだ知識・技能のなかで最も役立つもの（複数回答）

	全体	年齢					
		20代	30代	40代	50代	60代	未回答
	n=57	n=10	n=13	n=16	n=10	n=6	n=1
社会教育についての知識	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
図書館のサービスについての知識	38.6%	40.0%	61.5%	31.3%	20.0%	50.0%	0.0%
図書館の管理運営についての知識	1.8%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
本の分類や整理についての知識	49.1%	30.0%	46.2%	62.5%	60.0%	33.3%	100.0%
情報メディアについての知識	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
電子図書館についての知識	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
情報検索の方法についての知識	5.3%	10.0%	7.7%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	5.3%	0.0%	7.7%	0.0%	10.0%	16.7%	0.0%
未回答	5.3%	20.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%

最も多く、最長で31年勤務した人がいた。続いて多かったのは小学校の図書館で、最長17年勤務、次に都道府県立図書館で、最長13年勤務した人がいた。前述の勤務した図書館で中学校の図書館が上位3位に入っていたことを考えると、中学校では4年未満で転職や異動していることがわかる。

図書館での勤務経験を有する57人を対象に、司書課程で学んだ知識・技能のなかで最も役立つものと、図書館で勤務する前にもっと深く学んでおけばよかったと思う知識・技能の2点を聞いた結果が、それぞれ表13と表14である。

表13のように、最も役立つ知識・技能は、「本の分類や整理についての知識」、次に「図書館のサービスについての知識」だった。20代と30代では「図書館のサービスについての知識」が最も多かった。

その他の回答は、「本そのものについての知識」や「昔のことで覚えていない」というものだった。

もっと深く学んでおけばよかったと思う知識・技能については、表14のように「情報検索の方法についての知識」が最も多く、次に「情報メディアについての知識」「図書館のサービスについての知識」だった。他の年代に比べて、20代では「社会教育についての知識」が多く、40代、30代は「図書館の管理運営についての知識」が多かった。その他の回答は、「アニメーション、ブックトーク、リテラチャーサークル、ビブリオバトル等読書指導の技術」「絵本の読み聞かせで役立つ選書の知識、わらべうた、手あそび」「学校教育についての知識」など、主に学校図書館で必要とされる具体的な知識・技能についての記述があった。勤務した時期や館種、担当する役割などの違いによって必要とされる知識・技能が異なることがわかる。

さらに、司書以外で役に立った資格について自由記述欄を設けたところ、22の回答があった。最も

表 14 図書館で勤務する前に、もっと深く学んでおけばよかったと思う知識・技能（複数回答）

	全体	年齢					
		20代	30代	40代	50代	60代	未回答
	n=57	n=10	n=13	n=16	n=10	n=6	n=1
社会教育についての知識	5.3%	20.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%
図書館のサービスについての知識	15.8%	0.0%	30.8%	18.8%	0.0%	33.3%	0.0%
図書館の管理運営についての知識	8.8%	0.0%	15.4%	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%
本の分類や整理についての知識	14.0%	10.0%	15.4%	25.0%	10.0%	0.0%	0.0%
情報メディアについての知識	19.3%	20.0%	0.0%	12.5%	30.0%	33.3%	100.0%
電子図書館についての知識	3.5%	10.0%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
情報検索の方法についての知識	28.1%	20.0%	38.5%	31.3%	30.0%	16.7%	0.0%
その他	5.3%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%
未回答	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%

表 15 今後機会があれば図書館で働いてみたいと思うか

	全体	年齢					
		20代	30代	40代	50代	60代	未回答
	n=166	n=28	n=27	n=28	n=51	n=28	n=4
働いてみたい	71.7%	75.0%	77.8%	78.6%	66.7%	60.7%	75.0%
働きたくない	27.1%	25.0%	22.2%	21.4%	31.4%	35.7%	25.0%
未回答	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	3.6%	25.0%

多かったのは保育士で、次に幼稚園教諭、中学校教諭だった。他に、司書教諭、ヘルスサイエンス情報専門員、基本情報技術者、プレゼンテーション実務士、コミュニケーション検定、介護福祉士、住環境福祉コーディネーターという記述があった。

表 15 は、図書館で勤務したことが一度もないと回答した 166 人を対象に、今後機会があれば図書館で働いてみたいか聞いた結果である。約 70% が働いてみたいと考えているのに対し、約 30% が働きたくないと回答している。50 代や 60 代では働きたくないと回答した人が多くなっており、自由記述をみると家庭環境や知識不足などによって「働けない」事情があると思われる。

(5) 司書課程、司書資格への思い

表 16、表 17、表 18 は、調査票の最後に設けた自由記述をキーワードごとに分類し、代表的な回答を取り上げ整理したものである。表 16 の鳥取短期大学の司書課程についての要望は 127 の回答、表 17

の卒業後のキャリア支援についての要望は 115 の回答、表 18 の司書資格をとってよかったことは 169 の回答が得られた。

表 16 にあるように、司書課程については、座学よりも実習や演習など、実際のスキルや知識を得られたりするような授業への要望が多かった。実際の就職に結びつく試験対策や学校図書館についての知識など具体的な内容を挙げる人がいる一方で、コミュニケーションや総合的な知識を学ぶ授業が必要という人がいた。

表 17 のように、キャリア支援についての要望は、半数以上の人求人情報について触れていた。司書の求人は少ないので全国の求人が必要、もう少しわかりやすく得られるようにしてほしいなど、実際に求人を検索した人の意見も多かった。さらに約 16% の記述が、卒業生向けのキャリアアップの機会やおさらい講座、相談窓口、卒業生コミュニティなど、卒業生向けの支援について触れられており、在学生だけでなく卒業生も対象としたキャリア支援のニー

鳥取短期大学司書課程修了生の意識調査

表 16 司書課程についての要望（自由記述）

主な項目	具体的な記述
①図書館実習	・実習があればよかった ・学校や図書館での実習
②座学への批判, 体験的, 実践的な授業方法	・座学はわかりにくい ・演習やグループワークを取り入れた授業 ・司書業務についての細やかな実務についての授業
③実際のスキルを身につける授業	・OPAC, iLis など, パソコンを利用した管理方法 ・製本, 修理の方法, 絵本の装備 ・ストーリーテリング, 読み語り, ブックスタート ・貸出・返却業務, 受付業務の体験 ・レファレンスの授業
④本, 選書, 分類についての知識	・児童書や絵本などの知識を広げなかった ・どの年代にどの児童書が適しているか選書の知識 ・今話題の本について知りたかった, 働いてから本の知識がなさすぎてとっても苦労した ・本を手にとってもらう工夫 ・本づくり, 本の修復についての授業
⑤図書館見学, 現場の人の声	・いろいろな図書館見学 ・おはなし会の見学, 仕事の様子の見学 ・実際に働いている人の経験談, 実際の勤務の流れ ・図書館を活用した成功事例
⑥求人情報, 就職への支援, キャリアのビジョン	・模擬試験対策 ・就職できる資格としてのカリキュラム設計 ・就職した先輩の話 ・働くビジョンが描ける授業内容 ・資格の活かし方についての情報提供
⑦授業時間への不満	・土日, 集中講義, 夕方の授業がしんどい, 大変 ・1コマが長すぎて集中力が続かなかった
⑧学校図書館についての知識	・司書教諭の資格が取れる授業 ・情報リテラシー育成, 探究学習の方法論 ・学校と図書館のつながり
⑨総合的な知識・スキル	・図書館員は本や図書館のことだけ知っていればいわけではないので, 社会に対しての総合的な知識や考えを学ぶ授業が必要 ・サービス業の一つなのでコミュニケーションの授業が必要
⑩授業の感想	・宍道先生の話がおもしろかった ・あまりに昔過ぎてわからない ・高多氏の「私の愛読書」が心に残っている, 多角的に物事を考えることを学んだ ・司書課程がなくならないでほしい, 他学科の学生と友達になれて楽しかった

表 17 キャリア支援についての要望（自由記述）

主な項目	具体的な記述
①司書の求人情報	・わかりやすい求人情報の提供 ・司書の資格が活かせる職種についての情報提供 ・正規職の募集が少ないため全国の求人情報が必要 ・就職活動の進め方
②就職先の開拓, 司書以外のキャリアの紹介	・司書の募集を増やすように開拓してほしい ・図書館以外の求人情報 ・学んだ知識を生かせるような職の紹介やさらに学びたい人への資格の紹介など学びの場の紹介
③採用試験対策, 勉強会	・司書になるために必要な知識, 具体的な試験内容の提供と支援 ・採用試験の問題集 ・採用試験にむけた勉強会 (できれば定期的に) ・気軽に集って話せる情報交換会
④転職時の勉強会やスキルアップ	・ブランクがある人のための専門知識のおさらい講座 (e-Learning ができるとよい) ・自分が習っていた頃とは内容も変化しているので変わった部分の勉強をしたい ・卒業後のキャリアアップや研修 ・卒業後も相談にのってもらえる司書の窓口
⑤現職の司書や卒業生との交流	・司書として働いている人との情報交換や質問の場 (ネット上) ・卒業生と就職に関する話をする機会 ・卒業生のコミュニティ
⑥ボランティア活動の情報提供や支援	・ボランティアで図書館に向けるようなフォーロー
⑦知識や視野を広げる講演会や研修の情報提供	・司書や図書に関係する研修, イベントの情報提供 ・図書館に関する今日的な課題についての講座や気軽な勉強会
⑧多様な選択肢の提供と支援, 向き不向きの判定	・職種によっては向いているか向いていないか実際に働いてみないとわからない場合もあるので, さまざまな方向を考えられるような支援が必要 ・何という職業が向いていると思うか判定出来る方法を考える
⑨就職についての感想	・司書として就職するのはかなりの狭き門 ・教育行政の基にある図書館では, 司書の扱いは粗雑である, この現実を判ったうえで進路の1つとして選択するならばよいが, 通常では動めきれない職場 ・司書も人手不足, ぜひ候補として図書館をすすめてほしい

表 18 司書資格をとってよかったこと（自由記述）

主な項目	具体的な記述
①図書館で働くことができたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時ではあったが、図書館で働くことができた ・この資格のおかげで今司書として生計を立てることができた ・競争率が高く、ムリだろうとあきらめていたが、この年齢になって資格をもっていたことにより、今の職場に就くことができた ・子どもが独立してやっと、あこがれていた司書の仕事につけてよかった、資格をとってよかった
②人とのつながり、人脈が広がった	<ul style="list-style-type: none"> ・司書になったことで、県内の司書と会い人脈を広げることができた ・全国の司書の人とのつながりができた ・本を通じて老若男女、関わることが良かった ・学校（小学校）へ読み語りに行かせて頂き、色々な人達に出会えたこと
③仕事の選択肢が広がった	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事を選ぶ幅が広がった ・転職する際に選択の幅が広がった ・これからこの資格を使えることがあるかもしれないという希望・期待 ・年齢不問の資格なので転職や退職後に有効に資格が活かせる ・結婚してからも使える資格だし、どこの地域に行っても働いてみようという気になる資格 ・今の仕事を辞めても、司書資格があることで、次の仕事探しの候補があるという安心感につながる
④本に関わる仕事ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・本に関わる職種につくことができた ・本屋さんで働けたこと
⑤今の仕事に活かせる	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、子どもに関わる仕事についているので行事毎に季節にあった絵本を読んだり選書したりできる力をつけられた ・保育士として働くなかで、図書の担当を任せられた ・保育現場では絵本に触れることがよくある。司書資格のおかげで台帳の仕方などスムーズにでき、実習で習ったブックカバーのやり方も活かせる ・現在介護施設で働いているが、利用者が読書が好きで希望の本を借りに行ったり、一緒に図書館に行ったりする機会が多い ・現在の職場においても、本を分類し整理管理することができる ・現在の仕事で自己研鑽するための資料を探すことに役立っている ・事務職だが、書類整理の時、学習した事が参考になった
⑥図書館を利用するとき、本を探すとき、情報検索をするとき役立つ	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館が使いやすくなった ・図書館で本を探す時、目的のものが、早く見つけられる ・探し物をするにあたり司書の方への伝え方が上手になった ・図書館の利用の仕方なども学ぶことができ、知識が深まったことで、自身の図書館を訪れる機会が増えた。保育の仕事に関する本や、絵本などを借りるためによく利用するようになった
⑦履歴書に書ける、自己PRになる	<ul style="list-style-type: none"> ・履歴書に書ける資格がある ・就職面接の際、話のネタになった ・職場での資格に毎回記入している。他の人はなかなか持っていないので、ほこらしい
⑧ボランティアなど何らかの形で図書館や本に関わるようになった	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館を活用させて頂き、親しみを持っている。小学校での読みきかせボランティアや、図書室の整理等に関わっている ・読み聞かせの講義は年をとった後にボランティアをする際に役立つと思う ・ある文庫でボランティア（本の貸し出し、フィルムコートかけ、よみきかせ）活動する機会があり、資格があったおかげで関わる事ができた ・ボランティアで読み聞かせの会に入っていた事がありますが、司書資格を持っているということで自信になった
⑨幅広い知識、教養が身についた	<ul style="list-style-type: none"> ・とる過程において、社会に対しての総合的な考え方を学ぶことができた。その部分は、今でも仕事や生活していく中で大切なことであると感じる ・司書になるために必要な知識のみだけでなく、情報収集能力が身についた。また知識を深めることの大切さを改めて知ることができた ・当時『司書は（浅くても）様々な分野の知識を広く得なさい』と言われた事だけは覚えている。その為、今でも好奇心は豊富で、転職を何度かしたが、その度、興味を持って仕事に取り組めた ・人と関わる事や、本・絵本の奥深さなど、勉強になるし、学校内における図書館の必要性や可能性などを感じている
⑩学び方、学ぶ姿勢が身についた	<ul style="list-style-type: none"> ・司書課程で学んだことは、すべての学びの土台となった ・あの夏休みの集中講義は学ぶ姿勢や心構えとしてとても役立った
⑪自信になった、自分の成長につながった	<ul style="list-style-type: none"> ・資格があることにより、自分の発言、考え方、知識などに自信を持つことができた ・以前の私自身よりはものごとを深く考えられるようになって、人生が少し豊かになった気がする ・わたしの人生のなかでキラキラと輝きを放っている。次々と受講者が脱落して、人数が減っていくなか、最後までやり切ったという達成感、人生を歩む上で、大きな自信となっている ・司書の資格あることで周囲から本が好きと認められたことがよかった
⑫学んだ思い出、資格をとったこと自体よかった	<ul style="list-style-type: none"> ・今の生活に直接的に関わってはいなくても当時興味のあった事や好きだった事を学べた時間は、とても有意義で、今でも大切に思い返す記憶になった ・若い時代のひとときを有意義に過ごせた ・単純に「資格を取った」という事実が残ったのが大きい ・資格は活かすことができなかったが「精神的な支え」となったかもしれない
⑬他学科の学生との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・他学科の学生や一般の方もおられ、いつもと違う環境で学べたことは当時も今も良かったと思う ・他の学科の人達と交流できたこと ・本が好きな人に沢山出会えたこと
⑭資格についての感想	<ul style="list-style-type: none"> ・取って良かったとは思いますが、実際司書として働きたくても求人がない ・無いよりは良い程度

ズがあることがわかった。

司書資格をとってよかったことには、表18のように多種多様な意見が集まった。司書資格の学びは、保育現場や介護施設、一般企業の事務など、図書館以外の分野においても役立つ、図書館の利用や情報検索、子育てなどにも役立つなど、仕事や生活の多様な面で活かされていた。さらに、幅広い知識や教養、総合的な考え方が身につく、人生を歩むうえで大きな自信になったなど、人生を豊かに過ごすことにも役立つことがわかった。

3. 考察

今回の調査によって、司書課程修了生の現状と司書資格や司書課程に対する意識について知ることができた。そこから、司書課程の学びや司書資格の意義について考察したい。

鳥取短期大学の司書課程修了生のうち約25%が図書館での勤務経験があり、修了生の多くは鳥取県内で家族らと同居し、パートや派遣など非正規で働いている人が約37%で、転職経験を有する人が多かった。こうした修了生の姿をみると、司書資格は図書館で働く際に役立つとともに、卒業後すぐに就職するときに活用しなかったとしても、転職や再就職といった将来の選択肢を広げる意義がある。表18をみると、司書やボランティアとして図書館や本を通して人と関わる機会が増え、活躍の場が広がっている。年齢不問の資格という声もあり、生涯にわたって活躍する可能性を広げる資格ともいえるだろう。

また、保育や介護などの分野で活躍する際にも有用であることがわかった。自己研鑽に励みキャリアアップをめざす際にも、司書資格で得た知識を活かし効果的に学ぶことができる。分類の考え方や本の選択、情報検索等は、今後の情報社会の中でも必要とされる汎用性が高い知識・技能と考えられる。さらに、幅広い知識が身につく、物事を深く考えるようになったこと、自信や精神的な支えとなるという

コメントからは、人生を豊かに生きる力を身につけることができる資格という側面もみえてきた。

このように、司書課程の学びや司書資格は、直接就職につながり図書館で働くための知識・技能を身につけるものであるとともに、生涯にわたって取得者の支えになり、生活の多様な面で活かされるものであった。こうした司書資格の多面的な意義を明確に受講生に伝えることで、学ぶ意欲や関心の向上につながるだろう。

おわりに

今回の調査をもとに、今後の司書課程の改善とキャリア支援について検討したい。まず司書課程の改善については、表13や表14のように、本の分類や整理に加え、情報検索や情報メディアについての授業内容の充実を図ることが重要である。さらに、読み聞かせや本の紹介などの演習や、学校図書館の知識などを実践的に学ぶ工夫を取り入れて、卒業後できるだけすぐに司書として活躍できる資質・能力の育成に努めていきたい。また実習については現在検討中であり、充実した内容になるよう県内の図書館と連携を図っていく。

キャリア支援については、求人情報や採用試験対策だけでなく、司書の知識を活かした図書館以外の求人情報や視野を広げるための情報を求める声があるとわかった。司書資格を活かす総合的なキャリア支援になるように、多様な情報提供から始めていきたい。

さらに卒業生への支援である。表18のように熱心な思いの伝わる回答が多く、「アンケートのおかげで改めて自分の気持ちを見つめなおす機会になった」という記述もあった。鳥取短期大学司書課程は約1,800名の司書の卵を育ててきたが、図書館での勤務経験のある人は約25%にとどまっている。一方で、勤務経験はないが働いてみたいと考えている人は多い。転職や再就職の後押しとなる卒業生を対象とした研修や情報提供が必要である。図書館での

勤務経験を有する人の多くは、市町村立図書館や小学校、中学校の図書館という、利用者と密接にかかわり、人々の学びの土台を支える立場にいた。県内の図書館を充実させるためには、こうした卒業生のキャリアアップのための専門的な研修も有効である。

調査に協力してくれた卒業生への感謝の気持ちを示すためにも、調査結果を活かし、卒業生の学びの機会の提供や卒業生のコミュニティの形成、図書館や司書に関わる情報発信などに取り組んでいきたい。

引用・参考文献

- 1) 長岡絵里佳・西尾肇「鳥取短期大学司書課程の現状と受講生の意識調査」『鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要』第78号, 2019, pp. 43-52.
- 2) 廣森直子「『専門職』の非正規化によるキャリア形成の課題：図書館司書を事例に」『青森県立保健大学雑誌』16巻, 2016, pp. 37-44.
- 3) 辻慶太・芳鐘冬樹・松本直樹・影浦峽「司書資格取得者に対する追跡調査：仕事・満足度を中心として」『図書館界』60巻3号, 2008, pp. 166-179.
- 4) 松本直樹「大妻女子大学司書課程履修者の資格取得に関する研究」『大学図書館研究』94巻, 2012, pp. 49-57.
- 5) 廣森直子「『専門職』女性のキャリア形成と専門性：司書と栄養士を事例として」『青森県立保健大学雑誌』13巻, 2012, pp. 1-11.